

私立大 定員割れ大学が6割近くを占める

日本私立学校振興・共済事業団が2024年度の私立大学・短期大学等の入学志願動向の調査結果を発表した。大学・短期大学ともに志願者数・合格者数・入学者数は減少した。定員割れの学校数の割合は大学で59%、短期大で92%となった。

以下、調査結果から浮かび上がった2024年度入試の特徴を振り返る。

①私立大入試の状況

志願者・合格者・入学者は前年に続き減少

2024年度の私立大の延べ志願者数は3,704,471人（前年比99.8%）と微減ではあるが、5年連続で志願者数は減少した＜図表1＞。合格者数は1,490,680人（前年比99.8%）、入学者数は494,730人（同98.8%）とこちらも前年に続き減少した。また、前年まで2年連続で増加していた推薦者等入学者数も258,553人（前年比97.1%）と減少に転じた。2024年度の18歳人口は前年から約3.4万人減と大きく減少した年度であることをふまれば減少は小幅にとどまっており、大学進学率は2024年度も上昇したものとみる。なお、入学定員は2024年度も増えており、門扉の広がり続けている状況である。志願倍率（志願者数÷入学定員）は前年の7.39倍から7.35倍と若干ではあるがダウンした。

＜図表1＞私立大入試の実施状況

年度	大学数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦者等入学者数	志願倍率
15	579	463,697	3,513,499	1,241,262	487,064	222,788	7.6
16	577	467,494	3,629,273	1,245,865	488,210	221,220	7.8
17	581	477,662	3,882,572	1,238,559	499,677	228,721	8.1
18	582	484,986	4,158,500	1,211,515	497,778	232,606	8.6
19	587	487,065	4,424,451	1,250,195	500,085	242,493	9.1
20	593	491,012	4,368,215	1,348,517	503,830	255,118	8.9
21	597	495,162	3,834,860	1,437,909	494,208	253,740	7.7
22	598	497,939	3,822,486	1,508,761	502,194	259,428	7.7
23	600	502,635	3,712,801	1,494,024	500,599	266,331	7.4
24	598	503,874	3,704,471	1,490,680	494,730	258,553	7.4

※日本私立学校振興・共済事業団資料より（図表2以降も同様）

※「推薦等入学者数」は「入学者数」の内数

大規模大は志願者数・合格者数など軒並み増加

＜図表2＞は大学規模別でみた入試の状況である。私立大全体の志願者数・合格者数・入学者数は減少したが、収容定員8千人以上の大規模大ではいずれも増加が続いている。とくに合格者数が前年比103%と増えている。大規模大では入試の複線化の動きが続いており、延べ志願者の増加とともに合格者数増加の要因となっている。入学定員充足率（以下、充足率）は103%と前年から1ポイントダウンしたものの、依然入学者数が入学定員を超えている状況である。

一方で小規模大は志願者数・合格者数・入学者数が軒並み減少した。充足率は89%と前年から更にダウンしており、入学者の確保が厳しい状況が続く。背景に地方で加速する18歳人口減の影響も大きい。地区の入試状況を学部所在地別に見ると、東北地区の充足率が90%、甲信越地区が90%、北陸地区が89%、中国地区が83%、四国地区が78%と地方を中心に充足率が低い状況となっている。地方に多く点在している小規模大は、志願者の大部分を地元出身者が占める。これが充足率の悪化に大きな影響を及ぼしているものとみる。

＜図表2＞大学規模別 私立大入試の実施状況

①小規模大（収容定員4,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
21	160,310	662,004	634,075	338,232	157,950	47%	99%
22	162,500	627,592	600,143	341,120	155,240	46%	96%
23	164,394	570,756	546,284	319,016	152,264	48%	93%
24	163,753	523,361	499,423	298,208	145,504	49%	89%

②中規模大（収容定員4,000人以上8,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
21	127,570	994,624	958,235	392,570	129,275	33%	101%
22	127,203	979,272	941,730	414,625	130,606	31%	103%
23	126,545	924,975	889,691	408,320	129,048	32%	102%
24	123,635	925,008	890,840	404,199	125,276	31%	101%

③大規模大（収容定員8,000人以上）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
21	207,282	2,178,232	2,071,650	707,107	206,983	29%	100%
22	208,236	2,215,622	2,101,122	753,016	216,348	29%	104%
23	211,696	2,217,070	2,107,833	766,688	219,287	29%	104%
24	216,486	2,256,102	2,144,271	788,273	223,950	28%	103%

「薬学」「保健系」「家政学」で充足率が大幅ダウン

＜図表3＞は私立大の学部系統別にみた入試の状況である。これらの系統のうち、志願者の減少率の高さが目立った系統は「薬学」「保健系」「家政学」「体育学」である。また、充足率は「薬学」が4ポイントダウンで90%、「保健系」が6ポイントダウンで91%、「家政学」が5ポイントダウンで84%と、これら3系統で充足率のダウン幅が大きくなった。近年、女子受験生が志望する学部系統に変化がみられており、女子の割合が多い系統である「保健系」「家政学」からその他の系統にシフトする女子受験生の増加が影響したとみる。

このほかの系統を見ると、国が拡大を目指している「理・工学系」では志願者数・合格者数は増加したものの、入学者数の減少により、充足率は2ポイントダウンし99%となった。

＜図表3＞ 学部系統別 私立大入試の状況

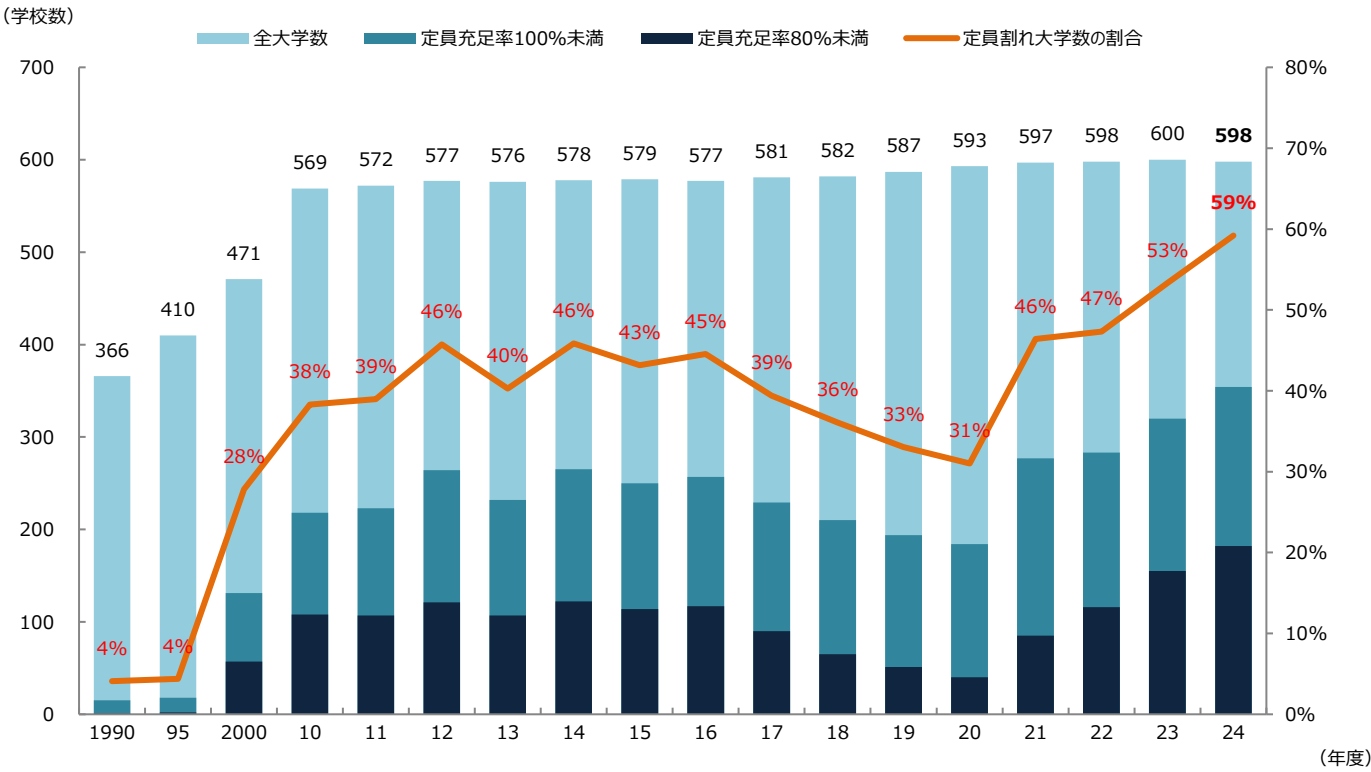
系統	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	充足率
医学	4,243	113,753	9,751	4,261	26.8	100%
歯学	1,995	7,982	3,795	1,525	4.0	76%
薬学	11,416	71,663	31,993	10,304	6.3	90%
保健系	41,435	153,563	78,305	37,724	3.7	91%
理・工学系	60,725	753,291	298,211	60,355	12.4	99%
農学系	8,890	86,942	31,883	9,028	9.8	102%
人文科学系	68,939	486,534	209,248	66,154	7.1	96%
社会科学系	174,681	1,338,226	517,288	179,019	7.7	102%
家政学	15,114	41,015	24,687	12,662	2.7	84%
教育学	18,838	89,036	42,165	17,244	4.7	92%
体育学	4,670	9,417	6,129	4,579	2.0	98%
芸術系	14,500	63,311	24,222	15,191	4.4	105%
その他	78,428	489,738	213,003	76,684	6.2	98%

私立大全体の6割近くが定員割れの状況

＜図表4＞は私立大の定員割れ学校数の推移である。2024年度の定員割れ大学の割合は59.2%と過去最高値を更新、全私立大のうち約6割が定員割れという状況となった。人口減による志願者数の減少が進むなか、私立大全体の入学定員は増加を続けていることが大きく影響している。

定員割れといっても、これら6割の大学すべてで入学者の確保が難しいという状況ではない。充足率が100%に近い大学の中には、収容定員の充足率を適正にするために合格者を減らした、つまりその気になれば入学者の確保は可能な大学もあるだろう。問題にしたいのは、定員充足率が80%未満の大学である。前年の155校から182校にまで増加、全体の3割に達している。＜図表4＞からも分かる通り、定員割れが深刻な大学がこの4年間で急速に増えている。こうした大学は助成金の減額、修学支援制度の対象外になるなど、厳しい環境におかれる。近年は定員割れを防ぐべく、入学定員を減員する大学も目立ってきた。

＜図表4＞ 私立大 定員割れ学校数の推移



②私立短期大入試の状況

志願者は1割以上減少、短大入試の縮小進む

2024年度の私立短期大の延べ志願者数は40,082人（前年比87.2%）と11年連続で減少した＜図表5＞。志願倍率も前年に続き1倍を切っており、私立短期大にとって厳しい状況が続いている。4年制大への進学率が上昇を続ける中、短大の進学を希望する受験生が減少しており、4年制大以上に入試の縮小が進んでいる。

合格者数は36,723人（前年比87.9%）と志願者の9割以上が合格していることになる。入学者数は31,295人（前年比89.1%）と年々減少している。こうした状況を受けて、募集停止を決める短期大がみられる。来春は上智大短大部など23校が募集停止を発表しており、短大の縮小傾向はより一層進む。

＜図表5＞ 私立短期大 定員割れ学校数の推移

年度	大学数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦者等 入学者数	志願 倍率
15	315	62,464	89,349	71,585	57,951	41,163	1.4
16	311	61,251	83,116	67,381	55,171	40,060	1.4
17	304	59,116	78,338	64,244	53,389	38,012	1.3
18	301	58,161	75,631	61,904	51,214	35,483	1.3
19	297	55,892	72,583	59,527	48,704	33,138	1.3
20	291	53,717	70,019	57,871	46,901	32,075	1.3
21	286	52,242	60,363	53,452	43,132	29,649	1.2
22	279	50,857	53,436	48,014	39,461	27,334	1.1
23	276	48,817	45,990	41,779	35,141	24,293	0.9
24	272	44,655	40,082	36,723	31,295	20,458	0.9

9割以上の短期大学が定員割れ

＜図表6＞は私立短期大の定員割れ学校数の推移である。2024年度の定員割れ短期大の割合は91.5%と前年から割合はややダウンしたものの、依然9割以上の短期大が定員割れとなっている。また、定員割れが深刻な充足率80%未満の短期大学数は前年の179校から191校に増加した。なお、規模別で充足率の状況を見ると、入学定員の規模の大きい短期大の充足率はアップしており、全体の動向とはやや異なる。

＜図表6＞ 私立短期大 定員割れ学校数の推移

